

# FAST FACTS

United Nations  
Development Programme



国連開発計画 (UNDP) 東京事務所 2007年1月18日

## 水危機に対して行動を起こす

世界の政治指導者は、極度の貧困に苦しむ人口の割合を半減させるという主要目標を含む「ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals; MDGs)」を2015年までに達成すると公約している。国連開発計画 (UNDP) は世界に広がる独自のネットワークを駆使して、MDGsの達成に向けた国内外の取り組みを調整している。『人間開発報告書2006 (HDR 2006) —— 水危機神話を越えて：水資源をめぐる権力闘争、貧困、グローバルな課題』が強調するように、8つのMDGsが達成されるかどうかは、地域社会、国家、地域、国際の各レベルでの水ガバナンスの強化に大きくかかっている。本報告書では次の4つの基盤が不可欠であるとしている。

- ・ 水の人権と位置づけ、遵守する
- ・ 水と衛生設備のための国家戦略を策定する
- ・ 国際援助を通じ国家計画を支援する
- ・ 世界行動計画を作成する

UNDPは、独自の「水ガバナンスプログラム」 ([www.undp.org/water/](http://www.undp.org/water/)) を通じて、MDGs達成に向けた取り組みが活性化するように支援している。また、本報告書の勧告を実行に移すうえで、国連水関連機関調整委員会 (UN-Water) やその他のパートナー組織と協力する態勢も整えている。

「私は拡大する水と衛生設備の危機に取り組むため、世界行動計画への呼びかけを全面的に支持します。『人間開発報告書2006』が浮き彫りにしているように、8つのMDGsはそれぞれが他の目標と密接に結びついています。水と衛生設備の目標を達成できなければ、他の7つの目標を達成できる望みも急速に薄れてゆくでしょう。我々が今、結束して世界中の貧困層に安全な水と衛生設備を提供しようとしなければ、国内や国家間の深刻な不平等は半永久的に続き、何百万もの人々を、回避できるはずの貧困や疾病、さらには人生における機会が損なわれる生活へと追いやることになってしまいます。我々にはこの危機を回避し、目標を達成する共同の責任があるのです。」

ケマル・デルピシユ UNDP 総裁

## 水にまつわる様々なファクト (事実)

- ・ UNDPの水ガバナンスプログラムは150カ国以上で活動しており、給水、衛生設備、越境水管理、水資源管理の4つの支援活動分野がある。3ページ掲載のグラフでは、給水と衛生設備をひとつのセクションとして扱っている。
- ・ 水ガバナンスのポートフォリオは、現物給付、現金の協調出資を含めて総額15億ドルである。
- ・ 地球環境ファシリティ (GEF) の国際水域に関するプロジェクトは、越境水管理分野の主要資金源となっている。
- ・ UNDPは UN-Water、世界水パートナーシップ、水と衛生プログラム (Water and Sanitation Programme)、世界水アセスメント計画、世界水フォーラムに参加している。
- ・ UNDPのパートナーには、政府、二国間・多国間援助機関、国連機関、NGO、民間基金などがある。
- ・ UNDPは、11の国と9つの地域に、(300の機関をメンバーに含む) 水管理能力強化ネットワークを設置している。
- ・ UNDPは1,413人のメンバーを擁する「環境とエネルギー」ネットワークから得た専門知識を活用している。

MDGsの進展を後押しする、UNDPの水ガバナンス強化戦略には主に以下のものがある。

- ・ 水管理、給水、衛生設備を国の開発戦略、貧困削減戦略に組み込む。
- ・ 水ガバナンス改善のための資金調達を活性化する。
- ・ 水ガバナンスに関する国際、地域、国家、地域社会の対話を支援し、参加する。
- ・ 各国が気候変動に対する適応計画において、水資源を考慮に入れるよう支援する。

- ・ 水資源を効果的に管理できるよう能力を強化する。
- ・ 効果的な水ガバナンスに不可欠な要素として、女性の地位向上および人権を促進する。

UNDPの水ガバナンスプログラムは、相互に関連性のある6つの分野における支援で構成されている。

### 1. 水の公平な管理とガバナンスのための国家戦略 (HDR 2006 第1章、2章、3章、4章に関連)

この分野の目標は、国際的なアドボカシー、政策の展開、活動の調整を通じ、水資源管理や給水と衛生設備を国家の開発計画に組み込むことによって、途上国パートナーが貧困と闘い、持続可能な開発を達成できるように支援することにある。

#### プログラムの主な成果：

- ・ カザフスタンの統合的水資源管理戦略 (Integrated Water Resources Management; IWRM) の策定を支援。この他にも、持続可能な開発目標の達成支援として、小島嶼開発途上国を含む50カ国以上で同様の計画が進行中である。
- ・ チャド、中国、ケニア、スーダン、ウクライナ等において、水と衛生設備に関する国家計画、料金制度、法律、規制等の確立を支援。
- ・ 国連水関連機関調整委員会 (UN-Water) の『世界水開発報告書』の水ガバナンスに関する章で執筆主幹を務める。
- ・ 「貧困と環境パートナーシップ (Poverty and Environment Partnership)」と協力して、貧困と水問題との関連を認め、投資価値を最大化し、最も喫緊の課題を最優先に据える政策を途上国パートナーが策定することを支援。

### 2. 水と衛生設備に関する地域社会の取り組み (HDR 2006 第1章、2章、3章、5章に関連)

この分野では、地域社会の状況や、貧しい人々、その周縁にある人々のニーズに対応しやすいよう、分権化された水管理の推進に焦点をおいている。UNDPでは、地域社会が IWRM で積極的な役割を担えるよう支援するとともに、安全で生態系を重視した給水・衛生設備や技術を推進している。

#### プログラムの主な成果：

- ・ 30カ国以上で水資源管理、給水と衛生設備に関するコミュニティのプロジェクトを支援。たとえば、インド・ラジャスタン州では、水不足解消のために、7,500のコミュニティで、ダムや池を作るといったウォーター・ハーベスティング (雨水利用) プログラムの構築を支援。
- ・ インドとスリランカでは、環境に配慮した衛生設備のパイロットプロジェクトが成功し、市や州政府から衛生サービスの拡充に対する需要が増加。エコロジカル・サニテーション (生態系に配慮した衛生対策) に対する投資は、キューバのハバナ湾、エジプトのマンザラ湖で現在進められている復興プロジェクトを支えている。
- ・ メキシコで広範囲に実施されている「環境に優しい」都市衛生設備計画は、地方団体による「エコサン」 (エコロジカル・サニテーション) トイレの設計・製造を後押しし、家庭や公共施設の「エコサン」システムの導入で成功を収めている。

### 3. 国境を越えた水管理に関する協力 (HDR 2006 第6章に関連)

この分野では、越境水域 (国境をまたがる河川、湖沼、帯水層) の共同管理について、優先順位の設定、ガバナンスの改革と投資に関するコンセンサスの形成、制度の育成と強化、行動計画の実施支援強化に焦点を定めている。

#### プログラムの主な成果：

- ・ 100カ国を超える参加国とともに、15の湖沼と河川流域において越境水管理プログラムを支援。
- ・ UNDPのパートナーとともに、12の共有水域で「越境的な原因究明分析 (Transboundary Diagnostic Analyses)」を実施。越境水域の管理に関して優先項目を特定し、共通の優先的な越境問題の原因と影響を評価。
- ・ UNDPの支援の下で、各国政府が共有する水域への共通した脅威に対処するための「戦略行動プログラム」を策定・採択。現在6つの水域でプログラムが進行中。
- ・ 誘発的な投資と政策改革によってドナウ川の汚濁負荷量が大幅に軽減。黒海の生態系も回復しつつある。
- ・ 5つの地域で水域に関する法的メカニズムを採択。
- ・ 越境水管理について8つの地域制度が創設、あるいは強化された。

#### 4. 気候変動への適応

(HDR 2006 第4章に関連)

この分野では、各国が気候変動に対する自らの脆弱性を把握し、これらのリスクを国の開発計画に組み込むことを後押しする。具体的には、水に関わる制度の強化と適応プロジェクトの優先付けが含まれる。貧困層が気候変動に特に脆弱であるということにどう対処するかが課題の中心である。

##### プログラムの主な成果：

- ・気候変動と適応に関する200以上の国別報告書(National Communications)、29の国内適応行動計画(National Adaptation Programmes of Actions)が策定された他、43カ国で適応に関する22のパイロットプロジェクトを実施。
- ・ジンバブエとモザンビークでは、UNDPがパートナーと協力し、気候変動適応戦略を作成するために、グローバルな気候モデルを河川流域の水文学と連携させた。
- ・インド、マルワール地方の400以上の村で実施されている渇水対策を支援。

#### 5. 水ガバナンスにおけるジェンダーの平等

(HDR 2006全体に関わるテーマ)

UNDPは、水資源管理において女性の地位向上を課題の中心に据えることで、男女双方にとっての人間開発を促進する政策やプログラムを支援している。

##### プログラムの主な成果：

- ・ウェブやCD-ROMを通じてツールやリソースを提供するインタラクティブガイド、「水管理におけるジェンダーの主流化：リソースガイド(Development of Mainstreaming Gender in Water Management: A Resource Guide)」を4カ国語で提供。
- ・水管理者向けの指導書、『なぜジェンダーが重要なのか(Why gender matters)』。UNDPの各国事務所に配布され、300の研修機関で使用されている。英語版とスペイン語版がある。

#### 6. 能力構築

(HDR 2006全体に関わるテーマ)

主要目的は、地方機関を能力構築や知識の中核とするための強化、より良い水資源管理、給水、衛生設備のための専門知識の強化、ツールおよび過去の知見へのアクセスの容易化をはかることが主要目的

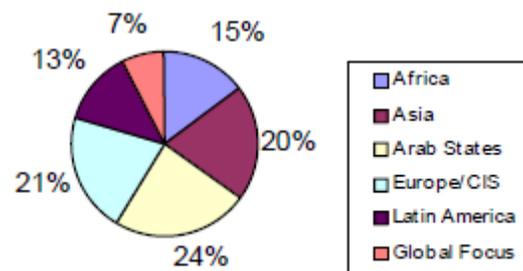
である。UNDPは経験や優れた実践を他の場所でも適用できるように、プログラムの効果を最大化するべく、知識ネットワークを支援している。

##### プログラムの主な成果：

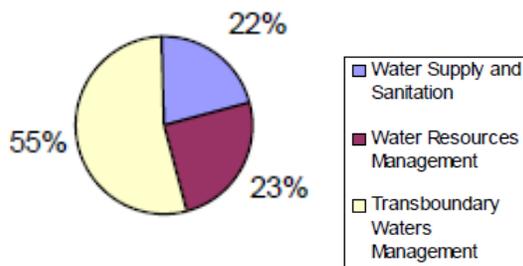
- ・水資源管理のための能力強化ネットワーク「Cap-Net」を構築。これまでに1,000人の研修者を対象に141の研修を実施。

UNDPとそのパートナーは、法律、制度、ネットワーク管理手法、地方の水管理、給水と衛生設備、エコサン、紛争解決、国の統合的水資源管理戦略(IWRM)策定など、様々なテーマに関する研修資料、リソースを作成している。

##### UNDPの水分野におけるポートフォリオ(地域別)



##### UNDPの水分野におけるポートフォリオ(分野別)



##### 国連水関連機関調整委員会(UN-Water)

UN-Waterは、水資源に関する国連システムの活動を調整する中心的組織である。水と衛生設備の分野において活動を展開している、UNDPを含む24の国連機関で構成される。UN-Waterは、「ミレニアム宣言」と「持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD)」で定められたアジェンダの実施を目指す国連システムの各活動の整合性と調整を促す、機関間メカニズムである。

詳しくはウェブサイト

[www.undp.org/water](http://www.undp.org/water)

<http://www.undp.org/gef/05/portfolio/iw.html> (英文)をご覧ください。